

平成23年度岡山大学学位記等授与式 式辞

本日ここに、ご来賓の方々、また多数のご家族、ご父兄の皆様にご臨席をいただき、平成23年度岡山大学学位記等授与式をとり行うこと、卒業生、修了生の皆さんはもとより、本学にとりまして、誠にうれしく、喜ばしいかぎりであります。本学を代表して、こころより皆様方にお喜びを申し上げます。

卒業生ならびに修了生の皆さんの長年にわたる研鑽が実り、皆さんのキャリアに岡山大学卒業、また修了という輝かしい履歴が記される日でもあります。そして、皆さんと私たち教職員が、地域、社会に対して大きな責任を共有する出発の日でもあり、心引き締まる日でもあります。

心からお祝いを申し上げますとともに、これまでさまざまな形でご支援いただきましたご家族の方々や関係各位の皆様にもこころから、お慶びとお礼を申し上げます。

本年度、本学の学部等の卒業生は2,352人、大学院の修了生は986人、総勢3,338人の多きに達します。本学が、これだけ多数の逸材を育成し得たことを、学長として、また、皆さんと同じ同窓生として大変誇りに思いますと共に、指導に当たられた本学教職員一同に改めてお礼を申し上げます。

今日は、私がこの1年間に大きな感銘を受けた3人の言葉を紹介しながら、話したいと思います。

「この世に不変なものは変化のみ」

この言葉は、みなさんよくご存じのGDP（Gross Domestic Product）国内総生産ではなくGNH（Gross National Happiness）国民総幸福量を1972年に提唱し、国を治めてきたブータンのジグミ ワンチュク前国王の言葉です。おそらく、彼らが信奉するチベット仏教の信仰からくる言葉だと思えます。

「この世に不変なものは変化のみ」

すべての事象は変化し、生命も、物質も、宇宙も、時間とともに同じ状態では存在できず、常に変化を強いられています。良い方向に変化する場合、また悪い方向に変化する場合、ともに考えられますが、残念なことに多くの場合、ほっておくと必ず退化し悪い方向に変化していきます。

逆に言えば変化しないものは成長しないということでもあります。さらに言えば、成長するには、常に努力が必要ということでもあります。

今日、卒業を迎えられた皆さんは、入学時より努力を重ね、間違いなく変化して成長をしています。卒業は英語でGraduateですが、Graduateは、graduate from “ある場所、地位から段階を踏んで前に進む” という意味であります。学生時代には段階つまり学年があり、Graduateできますが、これから社会に出る、あなた方にはGraduateという言葉はあてはまりません。あなた方が評価されるのは、あなた方が果たした変化のみです。変化しないものに

成長はありません。「変化」こそが、最高の褒め言葉であります。

では、どのようにして我々は変化していくのでしょうか。

「自らの意思で選択をすることだけが、明日の自分を創ることが出来る。」

アメリカ・ニューヨーク、コロンビア大学の盲目のインド系女性教授 シーナ・アイエンガー氏が著した「The Art of Choosing」の言葉です。

「自らの意思で選択をすることだけが、明日の自分を創ることが出来る。」

私たちの人生は「偶然と運命と選択」によって左右されます。皆さんは全くの偶然によってこの世に生まれてきました。医学的にも皆さんの持っている遺伝子は全く偶然によって作られ、自分では変えようもありません。そして、おそらく、今まで大きな運命にも左右されてここまで来たでしょう。シーナ・アイエンガー教授も運命によって「網膜色素性変性症」という特別な遺伝子を持っていた病気で失明し、大きなハンディーを背負って生きてきました。偶然と運命は私たちにはどうしようもありません。

しかし、その偶然と運命の中、その時々果たす皆さんの選択によって、人生は大きく変化します。2011年3月11日、日本中に、また世界中に大きな影響を与えた東日本大地震は我々にとって大きな試練であり、運命でありました。一年がたった今でも、多くの人を苦しめ大きな傷を残しております。その時の判断が多くの皆さんの分かれ道でも有り、生と死さえ分けました。また、時の不適切な判断が現在の東京電力福島原子力発電所の悲惨な状況を生み出したと言っても良いでしょう。運命は避けられませんが、運命を予測、想像することは科学で可能であります。「想像を超えた」という今回の事実は、言い訳であり、科学の力不足と判断力の欠如でありました。

皆さんが岡山大学を選んだのも運命ではありません、皆さんの判断です。この時々判断こそが、皆さんの人生を変化させる大きな要因です。つまり、皆さんの人生を有意義に、幸せに、価値あるものに変化させるには、日々の判断力を磨かなくてはなりません。この判断力に影響するのは、直観と理性であり、直観は決断力であり、理性は教養で、つまり学問、科学、知識、倫理、宗教、つまるところ、日々の勉強であります。

必ずしも、多くの選択肢があることが良い判断を導くとは限らないことが証明されています。過去の多くの偉人達は、偶然と運命の中、数少ない希有な選択をして成功を収めています。

スティーブ・ジョブズもその一人であります。

「死は必ずやってきて、古き物を廃し、新しき物を作る」

スティーブ・ジョブズが2005年、スタンフォード大学の卒業式で行ったスピーチの一文で、彼は昨年56歳で亡くなりました。死については、後で述べることにして、彼が生まれた偶然とその後の運命は、決して恵まれたものではありませんでした。彼は養子に出された両親の貧しさゆえに、大学を半年で退

学するという選択をしました。卒業はしませんでした。退学後も彼は自分の好きな事、興味のある講義だけを大学で受講して勉強を続けていました。彼のこの判断が、彼の将来を決定づけていたことは、当然、後になってわかったことでもあります。先のことは誰にもわかりませんが、自分の好きなこと、将来必ず自分のためになると信じたことを頑張る以外、点と点が繋がって将来、成功するチャンスはないという事です。

このChanceという英語は、結局は偶然であります。満足の行く人生を得るには、自分が素晴らしいと信ずる仕事をする、素晴らしい仕事は自分の好きな事を仕事とする、もし見つからなければ探し続けること、変化し続け、落ち着かないことであると彼は主張しています。

最後に、彼が述べた「死」についての考えです。

「死は必ずやってきて、古き物を廃し、新しき物を作る」

ご存知のように彼はすい臓がんを患い、肝臓移植まで行いながら、昨年56歳でこの世を去りました。この間彼は死に直面し、こう述べています。だれも死にたいと思っている人はいません。しかし、かつて死を免れた人もいません。死は生の最高の発明品である。死は、この世の中に「変化」をもたらす、最高のエージェントである。古いものが消え去り新しいものに道を開くものである。必ずあなた方の時代が来るということです。

私は医師で、長い間、医学を勉強して「生」のために尽くしてきました。しかし、死よりも生のほうがはるかに不思議な生命現象で、生きる事の方がはるかに困難な事であることを常に思い知らされてきました。そして、人によって与えられた生の時間は異なります。

今日は、あなた方の人生が新たに大きく変化が始まる日でもあります。好きな事に最大の努力をしていれば悲観することは全くありません。それがあなた方の人生であり、あなた方の運命であり、あなた方の選択です。その選択した点と点が必ず繋がるときがきて、人生の幸せに繋がります。

これから先、今日の日に戻ることはできません。明日が有るのみです。

最後に

私も、40年前にこの岡山大学に学び、この岡山大学を卒業しました。岡山大学を心から誇りに思っています。岡山大学もこれから大きく変化を遂げていきます。皆さんも岡山大学を卒業すること、是非、誇りに思ってもらいたいと願います。岡山大学のこの美しいキャンパスは、あなた方が、再び今日の日を思い出しながら、この地に帰ってくることを待っています。

平成24年3月23日

国立大学法人岡山大学長 森田 潔